

## 全国トレーニングファーム推進協議会 幹事会 概要

日時：2026年5月20日（水） 10:00～11:00

場所：オンライン会議

出席者：日本農業法人協会 東郷氏、岸本氏、吉澤氏

全国農業協同組合中央会 山下氏

全国農業大学校協議会 高橋氏、種市氏（青森県営農大学校）

農業者大学校同窓会 八並氏、中林氏、滝田氏

全国指導農業士連絡協議会 小林氏

全国農業青年クラブ連絡協議会 伊藤氏

全国農業改良普及支援協会 佐野氏

事務局：全国農業会議所 市川氏、青木氏、鈴木氏、渡邊氏

農林水産省 齊賀課長、野見山総括、菊池経営専門官、高木経営専門官、

吉本経営専門職、松下研修員

概要：

### ポイント

- 全国トレーニングファーム推進協議会（以下「TF協議会」）の設置要領を制定。
- ロゴマークを作成し、TF協議会会員がPR等に活用できるよう今後周知。
- 全国農業会議所が運営する「農業をはじめの.JP」にTF協議会特設サイトを開設し、会員募集を開始する予定。併せて、研修希望者の募集・マッチングを進めていく。
- 9月に第1回総会を開催する。

農水省齊賀課長から冒頭挨拶後、事務局より資料に基づき、設置要領の制定やロゴマークの作成、会員募集の開始、マッチング、調査等の今後の活動について説明するとともに、トレーニングファームの事例や課題等の情報提供を依頼。その後、以下のとおり意見交換を実施。

（中林氏/農者大同窓会）

業種別・品目別のトレーニングファームの情報は提供可能か。

（事務局/農水省）

現時点では整理できていないが、協議会発足を機に業種別・品目別の整理を進めたい。

（中林氏/農者大同窓会）

畜産の場合、研修を経て農場自体を引き継ぐ「譲渡型」のトレーニングファームも考えられるが、その活用如何。

（事務局/農水省）

トレーニングファームには様々はパターンがあると認識している。調査・分析を通じて「譲渡型」も含めてうまく活用できるよう検討していきたい。

（八並氏/農者大同窓会）

各県、中央果実協会の果樹型など、全国でトレーニングファームの取組が行われているが、TF協議会ができることで窓口が一本化されるのか。

（事務局/農水省）

窓口の一本化ではなく、県等の取組とも連携しながら進めていく考え。

（高橋氏/農大協）

トレーニングファームの成功のためには、数を増やすこと、市町村を動かすことが重要。町村会や市町会に TF 協議会への参加を呼びかけることはできないか。

(事務局/農水省)

ぜひ声掛けをしていきたい。

(伊藤氏/農業青年クラブ)

会員申込フォームの話が出たが、母体である特設サイトに重きを置いたほうがよい。経営体いかに TF 協議会へ参加してもらえるかが鍵だと思うが、研修生のマッチングは TF 協議会の会員が対象なのかどうか曖昧に感じるので、そこは TF 協議会がこういうものだと誰もがわかるよう、サイトの閲覧環境を作ったほうがよい。

(事務局/農水省)

研修希望者も会員になれるので、マッチングは会員同士で行う想定。パスワード等で会員限定アクセスの仕組みを検討していきたい。本日お示ししたサイトイメージは、あくまで仮のものである。

(八並氏/農者大同窓会)

長崎県には、農協の部会が研修生の受入れ主体となった成功例がある。部会が受け入れることで出荷先等が確保できるので、新規就農後も安定した生活ができる。受入れ側として、個人や法人以外に、部会として入会できるか。また、農業者を増やすためには、農業の魅力・成功事例のアピールも重要ではないか。

(事務局/農水省)

部会としての入会も可能。また、成功事例については、今後の調査を通じて成功要因を分析し、情報発信していきたい。

(種市氏/農大協)

雇用型経営体のイメージとして、現段階で具体例はあるか。

(事務局/農水省)

現時点ですぐに出てくる具体例はなく、極めて少ないと認識している。就農3年以内に常用労働者2名以上雇用、耕種農業では売上3,000万円以上等の要件を達成している事例は、現状ほぼない。農業の構造転換を図るためにモデル的な補助事業として設計しており、調査事業と並行して事例創出に向けた取組を進めている。

(中林氏/農者大同窓会)

市町村全体で実習生を受け入れ新規就農を支援している市町村がある。会員になるよう発信してよいか。

(事務局/農水省)

ぜひ市町村にも声掛けをお願いしたい。

以上